

## 【小児に対する新型コロナウイルスワクチンの接種について】

小児へのワクチン接種の実績が増えていく中、日本小児科学会では2022年8月に5～17歳の基礎疾患のない小児への新型コロナウイルスワクチン接種について「意義がある」から「推奨する」へ変更する見解を示しました。さらに、2022年11月には生後6か月～5歳の基礎疾患のない小児への新型コロナウイルスワクチンを「推奨する」との見解も追加しています。以下に小児科学会の提言を要約します。

### 5～17歳の小児：

- ・ワクチンによる新型コロナウイルス感染の予防効果は高くはないが、入院や重症化、重篤な合併症である MIS-C(小児多系統炎症性症候群)の予防効果はあると思われる。
- ・12歳～17歳の男児の心筋炎の報告が他の年齢層・女児と比較し多いが、いずれも軽症であり、その他の重篤な副反応の報告は少ない。

### 6か月～5歳の小児：

- ・ワクチンによる新型コロナウイルス感染の予防効果は70%であり、現時点では重篤な副反応の報告は少ない。
- ・まだ十分な情報の蓄積がない。
- ・長期的な影響に関するデータはまだない。

また、これまでの統計から、小児の新型コロナウイルス感染では以下のような場合は重症化のリスクが高いといわれています。

- ・2歳未満の小児
- ・基礎疾患のある小児（年齢にかかわらず）

上記をふまえ、小児への新型コロナウイルスワクチン接種についてはご家庭でよく検討していただくようよろしくお願いいたします。

### 【ワクチン接種にあたり考慮すべき基礎疾患等】

- ① 慢性呼吸器疾患(コントロール不良の重症喘息を含む)
- ② 先天性心疾患/後天性心疾患(有症状、運動制限中、または治療中など)
- ③ 慢性腎疾患(透析や免疫抑制療法を受けているなど)
- ④ 神経・筋疾患(脳性麻痺、難治性てんかん、重症心身障害児など)

- ⑤ 血液疾患(白血病など、免疫抑制療法を受けているなど)
- ⑥ 糖尿病・代謝性疾患
- ⑦ 膠原病・関節リウマチ
- ⑧ 内分泌疾患(甲状腺機能亢進症、副腎不全や下垂体機能異常など)
- ⑨ 消化器疾患(炎症性腸疾患、胆道閉鎖症術後、肝移植後など)
- ⑩ 先天性免疫不全、あるいは治療や疾患などでの免疫抑制状態の児
- ⑪ 早産児、高度肥満など

小児におけるコロナウイルスワクチン接種についてさらに知りたい方は、下記ホームページで確認できますのでご参照ください。

●厚生労働省ホームページ「新型コロナウイルスワクチンについて」●

[https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine\\_00184.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/vaccine_00184.html)

●コロナワクチンナビ(厚生労働省特設ページ)●

<https://v-sys.mhlw.go.jp/>

●日本小児科学会ホームページ●

<https://www.jpeds.or.jp>